鹿児島市立桜丘中学校
令和3年11月19日

第8号

学年文化祭終了

校長　上久保大介

１０月２９日（金）は、**学年ごとの文化祭**がありました。

コロナ禍により計画は二転三転し、**最終決定したのは本番の３週間前**。ところがその週は中間テストがあったため、なかなか始動できず、**本格的な準備が始まったのは２週間前**でした。昼休みや放課後の合唱練習も本番の２週間前の１８日（月）からで、この時点で音取りも不十分な状態でした。音取りは音楽の時間に１学期から始めていましたが、「**マスク着用**」の状態では思うようには進んでなかったのです。加えて、**文科省から**は、こともあろうに**「歌ってはいけません。」「歌ってもささやくように。」という指導**があり、普段の生活の中でも**「大声を出してはいけません。」**などと、**不自由な制限**があり、まるで声の出し方さえ忘れてしまいそうでした。私がこれまで経験した中で、**最大のピンチ**が今年訪れたわけです。**「歌を忘れたカナリヤに歌を！」「でも、２週間で完成を？」**それはまるで、**「走りこんでいない人がオリンピックに出るようなもの」、「軽自動車でＦ１レースに出場するようなもの」**だったのです。それでも、生徒や先生たちはあきらめませんでした。心配はつのりながらも前に進まないわけにはいかないのですから。不自由な条件の中で、限られた時間の中で、**何ができるのか、どのようにすればより良いものを作れるのか**、という思いで頑張ってきました。しかし、残り１週間を切ると私の中では、「間に合うのか？」という心配が「間に合わないかもしれない。」という絶望感になったり、「いや、何とかなるはず。」という光を求める思いになったりしました。それは、合唱だけではなく、全ての舞台発表、展示発表に対しても同じでした。

しかし、**文化祭当日**、私の心配をよそに生徒たちは何事もなかったかのように、**堂々と歌ったり、自信をもって発表をしたりしていました**。展示物も授業での指導が生きて、**個性あふれる多彩な作品が出来上がっていました**。とても驚き、そしてうれしかったです。と同時に、「２、３日前はできていなかったのに、なぜできたの？」という喜びを伴った疑問もわきました。でも、**答えは**わかっているんです。指導してくださった**先生方のおかげ**です。そして何より、短い期間でパフォーマンスを最高地点まで高めていった**生徒自身のおかげ**なんです。

何はともあれ、今回も**コロナ禍の中での学校行事を成功裏に終えることができました**。